

令和4年3月

令和3年度 学校経営報告

八王子市立船田小学校 校長 平田 英一郎

1 はじめに

今年度はコロナ禍での教育も2年目となり、そのような中でもできることがある程度分かってきました。子どもたちも教職員も「今の自分たちにできること」を精一杯考え「今 やらなければならないこと」を昨年度以上に実行してきました。保護者や地域の方々も理解を示してくださり、多大なる協力をしてくださいました。

そして「コロナを正しく恐れ、学びを止めない」という八王子市教育委員会の方針のもと、「今しかできない教育活動」を、今年度も全力で行いました。

次年度以降も「今できるベストの教育」を船田小学校は行っています。

教育委員会・保護者・地域の皆様のご理解とご協力に、この場をお借りして感謝申し上げます。

- 2 目指す学校像
- 子どもたちが「学びたくなる学校」
 - 保護者が 「通わせたくなる学校」
 - 地域が 「誇りに思う学校」
 - 教職員が 「勤めたくなる学校」 として1年間取り組んだ。

3 令和3年度の実行目標と方策（本年度の達成課題）

(1) 子どもたちが「学びたくなる学校」

①「できた」「分かった」喜びのある学習・学力向上

今年度の児童への学校アンケート結果 (上段())が令和2年度
(年2回行っている12月での比較) (1・2年92.2% 3～6年87.4%)
「学校が楽しい(そう思う・とてもそう思う)」 1・2年86.8% 3～6年94.8%
(1・2年92.2% 3～6年95.5%)

「授業が分かりやすい()」 1・2年90.6% 3～6年97.4%

という回答であった。高学年は一層信頼が高まり低学年は課題が残った。足りなかった部分は真摯に反省し次年度以降改善を図る。

② 特別な支援の必要な子供への指導・対応

→ 昨年度までの学校サポーターI、学習支援員に加え、今年度は東京都公立小・中学校特別支援教育推進補助事業からもサポーターを配置していただいた。

→ 特別支援教室やまほうしの巡回指導先から、長房小、横山第二小、横川小が外れ、船田小と城山小の2校の巡回となった。

(2) 保護者が「通わせたくなる学校」

①基礎学力の定着

→ 算数少数教員が行った「算数習熟度診断テスト」によれば(3～6年生対

象)、3年生で8%の向上であった。これは、7月と同じ問題を12月に行った点数の比較である(64.6%から72.5%)。同様に、4年生-3%、5年生5.8%向上、6年生7.2%の向上となった。

→ 国(6年)都(5年)の学力テストは今年度行われず意識調査のみとなった。市(4・5・6年)の学力調査は2回行われ、4年生は1回目2回目とも市内の平均を国語と算数の両教科で上回った。

② 保護者からの苦情対応を的確に行う。(問題発生の対応が後追いにならないように)

→ 何件かご意見をいただいた。そのたびに真摯に対応した。

(3) 地域が「誇りにしたくなる学校」

学運協とのスムーズな連携を行う。

① 今年度もコロナ禍の影響で地域との連携事業は行われなかった。

② 学運協と連携して、昨年度と同様に漢検や星空を見る夕べ等の事業が行えた。

(4) 教職員が「勤めたくなる学校」

① 校内研究の充実

→ 市の研究指定校として令和4年2月4日にオンラインで研究発表会を行った。対面式で行うよりも多くの方に船田小の子どもたちの頑張りや研究成果を見ていただけたと考える。

研究発表に向けて1年間にわたり、課題が上がるたびに話し合い、工夫改善し「チーム船田」として取り組むことができた。

② 働き方改革の推進

→ より多くサポーターを配置、休憩時間の明示化、ICTの活用を行う等行った。次年度からは電話応答時間の設定を行い、一層推進できるようにしていく。

(5) その他

① 人権尊重教育の推進

『心の教育(人権尊重教育)』を重視し、計画に沿って授業は行えた。道徳授業地区公開講座の公開講座はコロナ禍の影響で今年度も開催できなかった。

② 不登校児童をつくらず、いじめを起こさないよう、早めの対応。

→ いじめ対策委員会を毎月開催した。登校支援・特別支援の校内組織を充実した。登校支援センター(教育相談)や関係機関(八王子子ども家庭支援センター・八王子児童相談所等)との連携をより緊密に行い、組織的な対応を心がけた。

③ P T A行事や地域行事に関しては、今年度参加が難しかった。

④ 学校ホームページの更新は、好評をいただいている。

⑤ 今年度より放課後子ども教室が毎日開催(学校のある土曜以外の日)となり、安全安心な居場所を子どもたちに提供できるようになった。